



日本統計学会 会報 2010.4.25

No.
143

発行——日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
(財)統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任—岩崎 学 (理事長) / 山下 智志 (庶務理事)
内田 雅之 (広報理事) / 根本 二郎 (広報理事)
振替口座—00190-2-61361
銀行口座—みずほ銀行広尾支店普通 1092212番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

1. 巻頭随筆：社会諸現象の緩やかな経験分析 細谷雄三... 1	5.2 「論文、共同研究についての個人的回想」 丸山祐造... 12
2. 2010年度統計関連学会連合大会について（第二報） 稲葉敏夫, 吉村 宰, 椿 広計... 3	6. 会員から
3. 日本統計学会春季集会2010の報告 岩崎 学, 稲葉由之... 8	6.1 資料の譲渡について 浅井清朗... 13
4. 「第15回日本統計学会賞」, 「第6回統計活動賞」, 「第6回統計教育賞」受賞候補者の推薦募集 岩崎 学... 9	6.2 世界統計の日について 清水 誠... 14
5. シリーズ：統計学の現状と今後	7. 博士論文・修士論文の紹介 14
5.1 「若い世代の動きから感じる統計学界の現状と今後」 藤澤洋徳... 11	8. 理事会議事録 18
	9. 新刊紹介 19
	10. 学会事務局から 19
	11. 投稿のお願い 20

会員の皆様へのお知らせ

- 2010年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第二報）が今号に記載されています。
- 正会員・名誉会員には、評議員選挙のお知らせが同封されています。

1. 巻頭随筆：社会諸現象の緩やかな経験分析

細谷 雄三 (明星大学)

今日経験分析の範囲とみなされているのは、経験データの生成過程を確率モデル類で表現して、そのモデル類の上で推定・検定などの統計的推測を行うことである。しかし社会現象では、データがよく制御された対照ランダム実験から生成されたものではないような事例が、むしろ一般的であ

る。社会現象に適合する確率モデルについて意見の一致が得られにくい状況に対して、いかに経験分析を適用して、現象の全体像を記述したらよいであろうか？

社会学にソシオグラフィー (Sociography) という分野がある。その定義は多様であるが、社会

の諸側面が入り組んでいる現実の社会のあり方を総合的に記述する方法を指すことがある。それはまた、科学的に整備されていない文学とも未分化の方法でもある。このソシオグラフィーの代表的著作の一つとして、1932年に出版されたJahoda, M., Lazarsfeld P. F., Zeisel, H., Fleck, C. “Die Arbeitslosen von Marienthal”が知られている。その英訳は“The Sociography of an Unemployed Community Marienthal”として1971年に出版され、2002年版まで版を重ねて、社会学のフィールド・ワークや経験分析の古典となっている。

1938年のドイツによるオーストリア併合前後に、多くの研究者・知識人が、ウィーンを脱出したが、そうした人々の中にパウル・F・ラザフォード（1901-1976）とハンス・ザイゼル（1905-1992）がいた。とくにかれらは調査データにもとづく経験分析を広めた点で、社会諸科学への貢献が著しい。ザイゼルは、シカゴ大学法科大学院の教授を長く務めた。サーベイ調査の設計・実行の方法と調査結果のクロス集計にもとづく因果関係検出を解説したかれのテキストに“Say It with Figures”（6th Edition, 1985）がある。何ヶ国語にも翻訳されて、日本語訳としては1962年に木村定・安田三郎共訳、2006年に佐藤郁哉訳が出版されている。さらにザイゼルが法律・裁判における統計の役割を扱ったテキストにZeisel, H., Kaye, D. (1997) “Prove It with Figures: Empirical Methods in Law and Litigation”がある。かれ自身がさまざまな裁判中に当事者から委託され実施したサーベイ調査と、それら統計的証拠を裁判所の判決がいかに取り扱ったかを具体的な事例で解説している。ザイゼルは、コロンビア大学でラザフォードが創立した社会調査研究組織に参加して行った社会調査、市場調査会社でのマーケティング研究のほか、合衆国の裁判におけるサーベイ調査結果の採用に貢献した。調査結果にもとづく経験分析をもちいて合衆国裁判制度、とくに陪審員選出、裁判地決定、評決の手続きを批判的に分析した。また、下院非米活動委員会の研究では、同委員会の公聴会データの確率標本に対して内容分析

法（content analysis）を適用して、審問における委員の質問、証人の証言内容を数量的に特徴づけ、同委員会が憲法で保障される証人の諸権利を侵害していることを立証した。それは結果的に、1974年の議会による非米活動委員会の廃止への道を開いた。また、対照実験の方法をサーベイ調査に取り入れ、いわば「対照聞き取り法」として特徴づけられる対照調査法を考案して、商標侵害の証拠を数量化する方法や陪審の選出法が裁判に与える効果を測定するために応用している。

質と秩序の異なる諸証拠を照合して争点に対する総合的判断を示しながら、最終判決での結論を下す裁判の過程と統計的推論の実際との間には、類似性と同時に相違もある。裁判やその他公聴会などの場において、非専門家の広い理解を得て統計学が役立つようになるには、いかに統計的証拠、統計的結論を提示したらよいかを、研究そのもののあり方に関わらせて考慮する機会と必要が今後、日本でも増加するであろう。

科学用語とは対照的に、日常言語は基本的に非専門家間のコミュニケーションのために自然発生的に構成される。人々は、各人さまざまなグループに同時に属して、それぞれの一員として複雑な関わりの中かで相互に（必ずしも）整合しない多様な意思決定をしながら生活している。日常言語は社会の多様性に直面して専門化せずには話ができるように作られている。厳密性は犠牲にしているが、適用性や頑健性がある。またその多義性ゆえに、現実の使用に耐える言語になっている。日常言語を用いて統計的証拠をいかに非専門家に説得すればよいかという視点から、高度化・狭隘化し過ぎてしまった統計的諸方法を日常性と接点をもつ言語に戻すことも必要であると思われる。

ザイゼルと分野は異なるが、経験的・行動的ファイナンス分野の研究者にロバート・J・シラーがいる。著書“Irrational Exuberance”（2nd Edition, 2005）では、株価や不動産価格などの資産価格について、人々がなぜ不合理な期待を形成するのかをかれ独自のサーベイ調査にもとづいて解明し、その中でかれは最近の不動産バブル崩壊を予想し

ていた。シラーの経験分析はザイセルと驚くほど類似しており、高度な数学や精密な計量経済学的方法は使わない。独自のサーベイ調査にもとづく単純な数値結果を大変有効に使う。使われる統計数字が生きていて、説得力がある。かれらに共通する接近法は「緩やかな」経験分析と特徴づけることができよう。かれらの関心は、適用する方法の整合性や統一性にはなく、分析対象の全体像にある。

シラーによる金融社会の記述にはわれわれが日

常で出会う等身大の人間が出てくる。このような接近法は、今日、行動ファイナンスとよばれているが、Sociography = 社会誌学への対応としては、Financiography = 金融誌学とよぶことも考えられる。合理的経済主体から構成される効率的市場よりは、金融にまつわる「人間的あまりに人間的」側面を総合的に扱える学問として金融誌学というものが当然あってよい。むしろ、このような観点から、最近の不動産バブルとその崩壊および政府・金融界の混乱をよく理解することができる。

2. 2010年度統計関連学会連合大会について（第二報）

実行委員会委員長 稲葉敏夫（早稲田大学）
プログラム委員会委員長 椿 広計（統計数理研究所）
運営委員会委員長 吉村 幸（長崎大学）

2010年度統計関連学会連合大会につきまして、進行状況と詳細をご報告いたします。第一報でもご紹介いたしましたとおり、今大会は、統計関連学会連合に所属する全ての学会の共催により開催することになりました。また、本連合大会では、統計関連学会以外の研究者と共に統計科学利用のフロンティア、課題などについても重点的に議論するセッションを設け、多くの方々と、益々その重要性を増すであろう統計科学の社会的役割を考える場とすることに尽力してまいったところです。特に、連合大会の初日・2日目（9月5－6日）は、NPO法人横断型基幹科学技術研究団体連合主催第3回横幹連合総合シンポジウム「横幹技術の役割の新局面」も同一会場で同期開催され、統計関連学会連合大会と共催セッションを設けるなど協賛関係を調整しているところです。以下では、市民講演会、チュートリアルセッション、企画セッション、コンペセッションなどの概要などを紹介させていただきます。

なお、各種申込に関しては、以下の日程を予定しておりますので奮って講演参加お願い申し上げます。

講演申込

5月10日(月) 9:00～6月1日(火) 17:00

原稿提出

6月14日(月) 9:00～7月9日(金) 17:00

事前参加申込

7月15日(木) 9:00～8月19日(木) 17:00

以下では、これらも含めまして、項目ごとにご紹介させていただきます。今後、連合大会のWebページ<http://www.jfssa.jp/taikai/>に関連情報や詳細情報が随時掲載されます。

2.1 大会の場所と日程

開催日程：2010年9月5日(日)～8日(水)までの4日間（9月5日は、午後からチュートリアルセッションと市民講演会のみ）

開催場所：早稲田大学早稲田キャンパス（東京都新宿区西早稲田16-1）7号館

共催：応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会

なお、懇親会を2010年9月7日（火）18：00～（予定）に、大隈ガーデンハウスで行います。

2.2 講演の申込

講演は「一般講演」、「企画セッション講演」、「コンペティション講演」の3種類からなります。申込み方法は、すべての講演に共通の事項と講演ごとに異なる事項がありますので、ご注意ください。

（i）すべての講演に共通する事項

講演をご希望の方は、上記Webページからお申込み下さい。その他の申込み方法はありません。申込み期間は2010年5月10日（月）9：00から6月1日（火）17：00までです。Webページ上で、「一般講演」、「企画セッション講演」、「コンペティション講演」のいずれかを選択して下さい。「企画セッション講演」はオーガナイザーが一括して、それ以外は講演者が申込んでください。

（ii）「一般講演」に関わる事項

通常の講演は「一般講演」として講演者がお申込み下さい。Webページ上の講演申込み手順にしたがって申込みをして下さい。プログラム編成の際の参考になりますので、最大3個までのキーワードを、重要視する順に選択願います。また、講演者（連名講演者を含む）のうち、少なくとも1名は共催6学会のいずれかの会員であることが要件です。

（iii）「企画セッション講演」に関わる事項

オーガナイザーによる一括申込みとします。

（iv）「コンペティション講演」に関わる事項

「コンペティション講演」に関わる事項はつぎの通りです。コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画で、今回で8回目を迎えます。参加資格は2010年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者、あるいはコンペティション講演時点で現役修士・学部学生（社会

人学生を含むが、後期博士課程学生は除く）の方です。若手研究者については教員、社会人は問いません。連名講演の場合は、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。なお、研究報告の申込み時点で、コンペティション対象者は、共催6学会のいずれかの会員でなければなりません（ただし、申込みと同時に入会手続きをする方も含みます）。前回（同志社大学大会）と同様に事前審査は行わず、申込んだ有資格者全員がコンペティションに参加して頂けます。審査は、当日の口頭発表に対しての数名の審査員と参加者の一般審査との総合評価で行う予定です。詳細は連合大会のWebページに掲載される「コンペティション講演のご案内」をご覧ください。なお、コンペセッションは原則9月7日に実施し、表彰は最終日9月8日に行います。

2.3 講演報告集用原稿の提出

講演報告集を大会当日に配付いたします。また、Webでも公開いたします（CD-ROMは作成いたしません）。報告集用原稿はA4で1ページです。提出方法としましては、Webページから電子ファイル（PDF形式）を提出する方法を原則といたします。原稿提出期間は6月14日（月）9：00から7月9日（金）17：00までです。厳守をお願いします。

希望者は、報告集用原稿とは別に詳細論文（Webに掲載）をA4で最長10ページまで提出できます。論文はPDF形式（ファイルサイズは1MB以内）でメールによりプログラム委員会宛（taikai2010@jfssa.jp）にお送り下さい。報告集用原稿および詳細論文の執筆要項につきましては連合大会Webページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/2010/>
をご覧ください。

「企画セッション講演」の報告集用原稿の提出はオーガナイザーが一括して行って下さい。した

がいます。企画セッション講演者の方はオーガナイザーによる原稿提出が締切りに間に合いますようにオーガナイザーに原稿をお送り下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

【注意】報告集は、Webにて公開予定です。Webでの公開を希望しない場合には、報告集用原稿の提出時に、その旨をご指示ください。

2.4 企画セッションのご案内

現時点において、全部で20件の企画セッションが設けられています。テーマ（仮題）とオーガナイザー（敬称略）の氏名（所属）は以下の通りです。テーマのねらいや講演者・講演タイトル等につきましては連合大会のWebページをご覧ください。企画セッションの運営はオーガナイザーに一任していますので、企画セッションにおける講演者で質問等がおありの方は直接オーガナイザーにお問い合わせ下さい。なお、セッションの日程はプログラム作成時に決定いたします。

- 応用統計学会学会賞受賞者講演：応用統計学会企画セッション：永田 靖（早稲田大）、岸野洋久（東京大）、黒木 学（大阪大）
- 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演：日本計量生物学会企画セッション：大森 崇（同志社大）
- 計量生物学における統計的因果推論の役割：日本計量生物学会企画セッション：上坂浩之（大阪大学）、黒木 学（大阪大）
- 統計的分類手法の新展開とその応用：日本分類学会企画セッション：山口和範（立教大）
- 統計教育の質保証の枠組み：統計関連学会連合統計教育推進委員会、日本統計学会統計教育委員会企画セッション：渡辺美智子（東洋大）
- 横断型人材育成：横断型基幹科学技術研究団体連合主催、統計関連学会連合大会共催セッション：田村義保（統数研）
- 問題解決型統計教育：日本品質管理学会共催セッション：鈴木和幸（電気通信大）、渡辺美智子（東洋大）、椿 広計（統数研）：日本品質管

理学会共催

- サービス科学（仮題）：横断型基幹科学技術団体連合、統計数理研究所、産業技術総合研究所主催セッション、統計関連学会連合大会共催セッション：田村義保（統数研）
- データの質マネジメント：日本品質管理学会共催セッション：山本 渉（電気通信大）
- 感性の統計モデリング：感性工学会共催セッション：領家美奈（筑波大）
- 衛星リモートセンシングデータ実利用と精度：日本リモートセンシング学会共催セッション：西井龍映（九州大）
- 環境・生態データのモデル化と解析：清水邦夫（慶應義塾大）
- 海洋生態・水産資源データの解析と統計的モデリング：南美穂子（慶應義塾大）
- 世論調査の技術革新：コンピュータを用いた調査とその展望：田中愛治（早稲田大）、日野愛郎（早稲田大）、西郷 浩（早稲田大）
- 金融の計量リスク管理：三浦良造（一橋大）
- スポーツ統計科学の新たな挑戦：酒折文武（中央大）、田村義保（統数研）
- 抗がん剤第I相試験における統計の役割：石塚直樹（国立国際医療センター研）
- システム生物学に基づくトランスレーショナルメディシンにおける統計学的諸問題：井元清哉（東大医科研）、山口 類（東大医科研）、樋口知之（統数研）
- 臨床試験におけるデータ・モニタリング委員会と統計家の役割：越水 孝（ヤンセンファーマ）
- 食品安全性と統計科学との接点：大西俊郎（九州大）

この他にも、相互協賛する第3回横幹連合総合シンポジウムのセッションについても、統計関連学会連合大会に登録すれば入室可能となっています。ただし、横幹連合総合シンポジウム資料については、統計関連学会連合大会と横幹連合との共催セッションでない限り、横幹連合シンポジウム

への登録を別途行わないと入手できません。現在、第3回横幹連合シンポジウム（実行委員長：田村義保（統数研））「横幹技術の役割の新局面」については、下記のような企画が進行中です。また、上記統計関連学会連合企画セッションの中で、横幹連合会員学会共催セッションを中心に横幹連合との共催セッションとすることも検討中です。

9月5日（日）13：00～16：00 早稲田大学井深ホール

プレナリーセッション：科学技術・イノベーション政策と科学技術コミュニティ：日本工学アカデミー共催

9月6日（月）6企画セッション（企画進行中）
早稲田大学早稲田キャンパス

- 横幹人材養成（統計関連学会連合との共催）
- サービス科学（産総研、統数研との共催、統計関連学会連合との共催）
- パターン認識・機械学習
- 知の統合・システム科学
- 経営高度化
- 経済物理・ファイナンス

2.5 チュートリアルセッションのご案内

チュートリアルセッションでは、2つのテーマを用意する予定です。現状では、1つのテーマは企画未決定です。2つの会場で並行して行いますので、テーマ1またはテーマ2のどちらかをお選びいただけます。

日 時：2010年9月5日（日）13：00～16：00
（12：30より受付開始）

場 所：早稲田大学早稲田キャンパス7号館
演題・講演者（敬称略）：

テーマ1：標本調査の基礎から新展開まで
土屋隆裕（統数研）、星野崇宏（名古屋大）

テーマ2：ベイズ統計理論の新展開（仮題）
駒木文保（東京大）

なお、テーマ名や講演時間等について多少の変更があり得ますことをご了解下さい。

2.6 市民講演会のご案内

下記のテーマについて、講演会を予定しております。参加費は無料です。

日 時：2010年9月5日（日）16：30～18：00

場 所：早稲田大学井深ホール

テーマ：統計で社会・経済の深層を探る

講演者：田中愛治（早稲田大学）、吉野貴晶（大和証券キャピタル・マーケット（株））

開催趣旨：

今回の市民講演会では、統計を使って、国民の意識や投資家の行動、株式の動きなどを探っているか、その面白さは何かなどを紹介して頂こうと考えています。

昨年総選挙前にも綿密な調査を行い政権交替に関する著書も出版された政治学者・田中愛治先生からは、直前に行われる2010年参議院選挙と有権者の意識変化を紹介いただきます。

クオンツアナリストランキングで長年トップを走り、サザエさんと株価の不思議な関係などの指摘でも知られる吉野貴晶先生からは、株式投資における統計の役割などのお話を頂戴できる予定です。

2.7 参加申込と大会参加費

当日受付の混雑を緩和するため、7月15日9：00から8月19日17：00までWebによる事前申込みを実施します。割引もございますので、ぜひご利用ください。

〈大会参加費（報告集代を含む）〉

事前申込み/当日受付
会員（共催6学会の会員） 6,000円/8,000円

学生（会員・非会員を問わず） 2,000円/6,000円
学生以外の非会員 12,000円/15,000円

〈チュートリアルセッション参加費(資料代を含む)〉
事前申込み/当日受付
会員（共催6学会の会員） 2,000円/3,000円
学生（会員・非会員を問わず） 1,000円/3,000円
学生以外の非会員 4,500円/6,000円

〈懇親会参加費〉
事前申込み/当日受付
一般（会員・非会員を問わず） 4,500円/5,000円
学生（会員・非会員を問わず） 2,000円/2,500円

市民講演会は無料です。

なお、これまでの大会と同様、事前申込みのキャンセル・変更は認めません。大会に参加されなかった場合、報告集あるいは資料を送付いたします。

2.8 宿泊・アクセス案内

今大会では宿泊の斡旋はいたしません。

なお、下記のホテルには、統計関連学会連合大会用の特別料金が設定されています。ご予約時に「早稲田大学での2010年度統計関連学会連合大会に出席」とお申し出ください。お申し出がない場合には一般の料金でのご案内となりますのでご注意ください。お部屋の確保はしておりませんので、満室の際はご了承ください。

- ホテルサンルート高田馬場
住所：東京都新宿区高田馬場1-27-7

TEL：03-232-0101 FAX：03-3209-2349

最寄駅：JR山手線高田馬場駅早稲田口より徒歩1分

東京メトロ東西線高田馬場駅3番出口より徒歩1分

西武新宿線高田馬場駅早稲田口より徒歩1分
早稲田大学までの経路：都営バス高田馬場駅前より早大正門行き乗車約10分 200円

宿泊料金：シングルルーム 1泊8,000円税込
朝食は別途1,050円税込

• ホテルサンルート東新宿

住所：東京都新宿区新宿7-27-9

TEL：03-5292-3610 FAX：03-5292-3611

最寄駅：都営大江戸線・東京メトロ副都心線
東新宿駅B2出口すぐ横

JR山手線新大久保駅徒歩12分

早稲田大学までの経路：都営バス東新宿駅前より早大正門行き乗車約20分 200円

宿泊料金：シングルルーム 1泊7,600円～9,200円税込 朝食は別途1,000円税込

※ホテルサンルート東新宿の宿泊料金はホテルの残室数による変動制となります。ご予約時の残室により最大9,200円となりますので正確な金額はホテルにお問合せください。

2.9 Webページおよび問い合わせ用メールアドレス

連合大会のWebページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/>

に関連情報や詳細情報が随時掲載されます。メールによる問い合わせは、taikai2010@jfssa.jp宛にお願いいたします。

3. 日本統計学会春季集会2010の報告

岩崎 学 (日本統計学会理事長)
稲葉 由之 (春季集会担当理事)

標記の集会在2010年3月7日(日)に東京渋谷の青山学院大学で開催され、関係者のご協力により無事終了することができました。今回の集会では、3つの口頭発表セッション「高等教育における統計教育の分野別質保証に向けたガイドラインと評価の枠組み」、「日本統計学会各賞受賞者講演」、「政府統計における調査方法の評価」を展開しました。集会の参加者数は158名を数え(2009年125名、2008年82名)、集会後の懇親会にも62名の方々が参加されました。

「高等教育における統計教育の分野別質保証に向けたガイドラインと評価の枠組み」のセッションでは、英国王立統計学会のGerald Goodall氏、中国人民大学のYuan Wei氏および国際基督教大学の北原和夫氏をお迎えし、それぞれ、英国での学会による各大学の統計学のコースの認証の話、中国での統計の専門家の資格認証に関する試験制度の話、および日本の学術会議の分野別質保証に関する興味深い最近の話題提供をしていただきました。「日本統計学会各賞受賞者講演」のセッションでは、2009年9月の連合大会の折に各賞を受賞された吉田朋広(日本統計学会賞)、駒木文保(研究業績賞)、西山慶彦(研究業績賞)、西山陽一(小川賞)の方々の記念講演が行われ、それぞれ受賞に至った業績から今後の発展まで最先端の研究が披露されました。「政府統計における調査方法の評価」のセッションでは、会田雅人、廣松毅、土屋隆裕の各氏から、統計法の改訂に伴う政府統計のあり方および統計調査の制度などにかかわる興味深い事例などが報告されました。

また昨年に引き続きポスターセッションも企画

され、若手の統計家を中心に22件の発表がありました(2009年10件)。ポスターセッション会場では来場者との熱心な議論および発表者同士の交流などが行われていました。今回の集会では、優秀発表賞のほかに学部学生や修士課程の学生を対象とした学生優秀発表賞を新たに設けて優秀な発表を表彰しました。優秀発表賞として、野村俊一(総合研究大学院複合科学研究科D1)、山本雄三(東京工業大学大学院社会理工学研究科D3)の2名、学生優秀発表賞として、矢部竜太(一橋大学大学院経済学研究科M2)、石黒久稔(青山学院大学理工学部U4)、橋本 翔(大阪大学大学院人間科学研究科M2)、藤本翔太(大阪大学大学院基礎工学研究科M1)の4名が受賞し、懇親会会場にて美添会長より表彰されました(氏名の順序は申込受付順)。各発表ともレベルが高く、受賞者の決定が難しくうれしい悲鳴であったと聞いています。ポスターセッションが、今回の参加者数の増加、特に若手の参加者の増加の主たる要因となった点も特筆すべきです。

春季集会の前々日3月5日(金)と6日(土)には、成蹊大学において第6回統計教育の方法論ワークショップ(社会の期待に応える統計教育の構築-「資料の活用」から「データの分析」をどう教えるのか-)が開催され、春季集会のセッションと併せて統計教育に関する3日間の研究集会となりました。

最後になりましたが、このような集会の場をご提供いただいた青山学院大学に感謝申し上げますとともに、次回2011年の春季集会への会員の皆様のご参加をお待ちしています。

4. 「第15回日本統計学会賞」, 「第6回統計活動賞」, 「第6回統計教育賞」 受賞候補者の推薦募集

岩崎 学 (日本統計学会理事長)

「第15回日本統計学会賞」, 「第6回日本統計学会統計活動賞」, 「第5回日本統計学会統計教育賞」の受賞候補者の推薦を下記により募集いたします。

各賞の推薦締め切りは2010年6月11日(金)です。

推薦書の宛先は下記で、封筒に「～賞推薦書在中」と朱書きしてください。なお、推薦書は日本統計学会のホームページからダウンロードできます。

[宛先, 照会先]

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F

(財) 統計情報研究開発センター内

日本統計学会係

TEL & FAX : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

[対象範囲]

各賞授賞の対象となる者は、年齢、性別、国籍、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。なお、統計活動賞、統計教育賞については、個人のみならずグループや団体も授賞対象になる。

[推薦及び選考方法]

受賞候補者を推薦できる者は、日本統計学会の正会員および名誉会員に限る。推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。各賞授賞対象者の選考は、会員の推薦を受けてそれぞれの賞の選考委員会が実施する。

[発表]

各選考委員会は、その結果を評議員会および学会総会において報告し、大会期間中に授賞式を行う。

なお、各賞の概要と規定を以下にご紹介します。詳細は学会ホームページをご覧ください。

日本統計学会賞

[名称]

日本統計学会賞

[趣旨]

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

[対象範囲]

対象とする分野は次のとおりとし、全体として年間3名程度に授与する。

理論：統計学の理論の発展に多大の貢献のあった者

実証・応用・計算：この分野は以下のような内容を含む。

(1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。

(2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。

(3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。

(4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。

その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

[選考方法]

推薦者は所定の書式にしたがって、対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し評議員会が承

認した者若干名。

- 選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。

日本統計学会統計活動賞

[名称]

日本統計学会統計活動賞

[趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

[対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動である。

- (1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等）。
- (2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。
- (3) 新たな研究領域・分野の開拓。
- (4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

[選考方法]

授賞対象となる活動は、日本統計学会に設けた選考委員会が会員からの推薦を受けて選考する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

- 日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名。
- 選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会統計教育賞

[名称]

日本統計学会統計教育賞

[趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とする。

- (1) 統計教育に関する著書、論文
- (2) 統計教育の実践
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、教材等の開発
- (4) 統計の普及、啓蒙
- (5) その他統計教育の発展に寄与する活動

[選考方法]

授賞対象者は、日本統計学会に設けた選考委員会が会員からの推薦を受けて選考する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

- 日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名
- 選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

5. シリーズ：統計学の現状と今後

5.1 「若い世代の動きから感じる統計学界の現状と今後」

藤澤 洋徳（統計数理研究所）

日本の統計学界は、若い世代（大学院生やポストドクや若い助教）から見て、魅力的なのでしょうか？ 日本の統計学界の今後5年から10年を考えると、それは重要なことのように思えます。ここでは、私が見たり感じたりした若い世代の動きから、日本統計学界の現状と今後について、私見を述べさせていただきます。

私の中では象徴的なシーンがあります。2007年に行われた統計関連学会における「ゲノム関連データ解析」のセッションにおける溢れんばかりの熱気でした。特別セッションだった訳ではありません。しかし大きな会場に非常に多くの聴衆者がいました。特に若い世代が圧倒的でした。あの光景を私は忘れられません。

ゲノム関連データは、統計学に魅力的なテーマを提起し続けています。データが極端に大規模になったことに加えて、特に、標本数 (n) よりも説明変数の数 (p) が大きい「 $n \ll p$ 」問題の提起は強烈でした。関連した問題は、多重比較、False Discovery Rate, Lasso, ブースティング, 正則化, グラフィカルモデリング, ベイズ推測, などの統計学の多くの方法論に、新しい息吹を与えています。

若い世代の人たちは、それまでに、先生から、先輩から、メディアから、他分野の同級生などから、いろいろなところから、「ゲノム関連データ」に何らかの魅力を感じていたのでしょう。そのような魅力を具体的に感じてみようとして、「ゲノム関連データ」のセッションに多くの若い人たちが集まったのだと思います。そして何らかの期待感を持っていたのだと思います。その期待感が、あの熱気になっていたのだと思います。それは、

日本の統計学界が、そのような行動を自然に促す雰囲気を含んでいるということでもあり、そのような若い人たちがたくさんいるということも含めて、当面の統計学界は明るいと感じられました。

ただし、現実には、所属する研究室が行っている研究と違う研究を行って、さらに成果を出すことは、非常に難しいです。しかし、重要なことは、魅力的なテーマとは何であるかという雰囲気を感じようとする心だと思います。そのような心の動きに自由さを与える学界は、活力が生まれると思います。もちろん、可能であれば、自分の研究テーマに関連付けられて、その魅力をより深く体感できれば言うまでもありません。

ここで、話は全く変わりますが、私が裏方として関わり続けている「統計サマーセミナー」の話をしたと思います。「統計サマーセミナー」は、統計数理研究所の共同利用に研究集会として10年ほど前から採用され、主に旅費の補助を受けております。今年は70名ほどの方が参加されました。統計学界における若い世代を中心として交流が深められております。特に、統計学というものは横に広い学問であり、統計学とは、研究室で行われているものだけではなくて、もっともっと「自由な」学問であると認識するのに良い機会になっているのではないかと感じています。

少し前から、面白い変化が起きてきました。それは、発表者が、最初の頃の時間を使って、発表内容の初歩的な部分を丁寧に説明する、という場面を多く見るようになったことです。これは、私が若い時に統計サマーセミナーに参加していた頃（15年ほど前）には、少なかった場面だと思っています。私が若い時は、周りに理解してもらうという意識よりも、自分をアピールするという意識が強かったように思います。実際に、初歩的な部分の丁寧な説明を聞くだけでも、非常に勉強になり、参加した意義を感じます。特に、統計サマー

セミナーは、研究発表の場というよりも、研究交流の場ですので、非常に良い傾向なのではないかと感じています。

統計サマーセミナーは合宿形式です。夜を徹しての会話によって、日頃から感じている統計学の些細な疑問に関しても、気楽に議論をぶつけ合うこともでき、また、同じ分野を志す者として連帯感も生まれます。そして、そのような連帯感が、統計サマーセミナーのような場での初歩的な部分の説明の大切さをも、意識させて来たのではないかと感じています。

他の研究室との触れ合いは、統計学界の研究室をタコつぼ化させずに、横の連携を強くし、統計学界の強い土台になっていくと思っています。将来的には、アカデミックに限らず、統計学を使う一般の職業に就職された方までを含めた連携の土台になれば良いと思います。

私が統計サマーセミナーに参加していた昔の頃は、現在と比べると、参加者は非常に少なかったです。昨今は、大学院生が増えたということもありますが、上述のような良い意味での連帯感が相乗効果を生んで、参加者が増えてきたのだと感じています。そういう会が良い意味で育ってきているので、統計学界の将来は明るいかと思っています。

最後に一つ。統計学というのは重要な学問であることは、論を俟たないと思います。しかし、関連した学界に活気が生まれるかどうかは、学問が重要かだけではなく、若い世代に活気が生まれるかどうか重要なファクターだと感じています。現在の若い世代は、活気があるだけでなく、厚い層をなしているようにも感じています。しかし、若い世代は、熱しやすく冷めやすいものです。現状の良い流れを持続するためには、彼らの自由な動きに制約をかけることなく、のびのびと動いてもらい、さらに、上の世代が、「統計学を楽しんでいる」姿を、身をもって示し続けることが重要だろうとも思っています。

5.2 「論文、共同研究についての個人的回想」

丸山 祐造 (東京大学)

論文が雑誌に掲載されることは、研究者として大きな喜びである。私は、アクセプトの連絡があった日には家族と祝うことにしている。ところで論文は紙媒体や電子媒体として公開される一方、論文掲載に至る過程は、当人が話さない限り表に出ない。自分の場合は、以前は単著が多かったが、ここ数年共著が増えてきて、学会や研究会で、共著者とどうやって知り合ったのかと尋ねられることがある。ここでは、担当の内田先生の「何でも書いて良い」という言葉に甘えて、共同研究者との馴れ初めなど論文、共同研究についての個人的な経験を書こうと思う。

修士1年生のとき、竹村先生による Lehmann の本をベースした統計的推測の講義を受講し、Stein問題に興味を持った。ちょうど、修士に進学したときに久保川先生が赴任されており、修士論文の指導をお願いした。幸いにも久保川先生のアドバイスに基づいて考えた問題について、うまく結果を出すことが出来、修士論文を書き、最終的にそれが1998年にJMVAに掲載された。これは単著となっているが、自分の力だけでは到底掲載まで辿り着けず、論文の書き方、英文添削、レフリーへの対応など丁寧に指導して頂いた。研究者としてのキャリアの初期段階で、論文の書き方及びアクセプトされることの楽しさを教えて頂き、大変感謝している。私は2002年(当時30歳)まで、英語を話す機会を徹底的に避けていた。しかし、このままではだめだと思い、久保川先生に相談した。そのとき「ちょっと行ってくればいいんじゃない」と紹介してもらったのが、現在でも共同研究を続けている Rutgers大学の Strawderman教授である。電子メールを書いたところ、いつでもいいから来なさい、とのことであった。2002年9月に秋休みを利用して3週間滞在した。英語がなかなか通じないこと、食事があまり口に合わないこと以外は楽しく過ごせたので、今日に至るまで春と秋に定期的に訪問している。大変褒め上手で、い

つも乗せられながらディスカッションをしている。これまでに5本の共著論文を書き、6本目を準備中である。

さてネットサーフィンしていた2005年のある日のこと、Pennsylvania大学のBrown教授のweb pageを見つけた。講義ノートのpdfがあったので読んでみると、Maruyama and Strawderman (2005, AISM) で否定的に解決したある予想について、「数値計算の結果に基づくと成り立つ可能性がある」と書かれていた。そのことをネタに電子メールを書き、何度か電子メールを交換した後、2006年9月に1週間ほど訪問した。Brown (1971, AMS) の許容性の十分条件を拡張及び簡潔にしたMaruyama and Takemura (2008, JMVA) の結果を説明したり、許容性に関する未解決問題についてディスカッションした。残念ながら、その後共同研究に繋がったわけではない。しかし2007年にIMSとBernoulli Societyが共同で立ち上げたElectric Journal of StatisticsのEditorに、私をAssociate Editorとして推薦して下さったようで、今年からその役目についている。拙い英語で一生懸命説明したことは無駄には終わらなかったということかもしれない。

Brown教授の隣の部屋はEdward George教授の部屋である。彼はかつてはStein問題の研究もしていたが、現在はBayesian Model Selectionの研究に重心が移っている。Brown教授が私が訪問することを話していたようで、すぐに話しかけてきた。大変人懐っこい人物で、昔書いたというNSFグラントのプロポーザルを指差しながら

「Maruyama (2004, JMVA) の結果は、ここで研究目標としていたことだ。証明してくれてありがとう。でも、今はAudienceがほとんどいないだろう。Bayesian Model Selectionの分野に来なさい。」と誘われた。矢継ぎ早にいくつか論文を紹介してくれた。そのうちの一本であるLiang et al. (2008, JASA) では、鍵となる周辺尤度の計算にStrawderman (1971, AMS) で用いられた縮小型事前分布を想定し、単積分で表現される周辺尤度を導出していた。実際には、ラプラス近似したものを使うことになる。これに対して、Maruyama and Strawderman (2005, AS) からアイデアを借りると、周辺尤度を解析的に積分し尽くせるような事前分布が提案出来る。MCMCやラプラス近似が不要というのは有り難いはずである。そのことをGeorge教授に報告すると、Bayesian Model Selectionの専門家の観点から考察を加えてもらい、Maruyama and George (2008, Arxiv) を書いた。

圧倒的な能力、才能があれば、優れた論文を書くだけで国際的に評価されるだろう。しかし、私を含め多くの人はその水準に達していないわけで、海外の研究者と顔を合わせる機会を作り、自分の研究を紹介するなど、コネを作るための努力をする必要がある。もちろんそのような戦略的な意味だけでなく、外国の著名な研究者を訪問して話を聞いてもらうのは、それだけで純粋に楽しい体験である。私の場合は、「科学者のための英語…」の類の本を参考にして電子メールを送ることから始まった。若い皆さんが、外国人と共同研究を始める場合の参考になれば幸いである。

6. 会員から

6.1 資料の譲渡について

浅井 清朗

下記資料、大学、研究機関等の図書館へ譲渡したい(無料)と存じますので、御希望の機関はFAXにてお申込み下さい。なお1組のみしかありませんので決定は当方におまかせ下さい。

但し送料は負担していただきたくお願いします。

CURRENT INDEX TO STATISTICS
Vol.1 (1975) ~ Vol.22 (1996) 22冊
ASA/IMS 発行

申込先

〒440-0861 愛知県豊橋市向山西町1-20

浅井 清朗

FAX : 0532-53-4202

6.2 世界統計の日について

清水 誠 (総務省)

2010年2月に開催された国連統計委員会で2010年10月20日を「世界統計の日」とすることが承認されました。

これをもって、サービス、専門性及び完全性の真価を前提とする公的統計の多くの実績を意識するため、各国で「公的統計の多くの実績を祝賀」し、「世界統計の日」の一環で各種イベントを開催することとしています。

この日を世界統計の日とした理由は、2010年には多くの国で人口・住宅センサスが実施されるこ

とから、世界中の人々に公的統計の重要性を認識してもらいたいという事情があります。また、この日は数字の並びが良いという理由もあります。

皆さんも、その日の周辺に公的統計の利用実績の報告会等をできるだけ多く開催していただきますとともに、その際には、是非それらを「世界統計の日」の関連イベントと位置付けていただき、総務省政策統括官(統計基準担当)付国際統計管理官室 internat@soumu.go.jp までご一報いただきますようお願い申し上げます。また、国連は、Websiteでそのようなイベントに適用できるロゴ及びポスターを提供しているので御活用いただくことも可能です。

詳しくは <http://unstats.un.org/unsd/wsd/> を御覧下さい。なお、2011年2月に開催される国連統計委員会では、各国からの報告をもとにその後の「世界統計の日」の在り方について議論する予定です。

7. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員、の順に記載いたします(敬称略。カッコ内は取得年月、ただし平成22年2~3月取得の場合は省略)。

博士論文

- (1) 豊坂祐樹 (2) 博士(情報工学) (3) 九州工業大学 (4) 微分方程式とマルチエージェントを組み合わせたパンデミックシミュレーションとインフルエンザ感染拡大予測 (5) 廣瀬英雄
- (1) 小椋 透 (2) 博士(理学) (3) 中央大学 (4) Distribution and variable selection in principal canonical correlation analysis (5) 杉山高一
- (1) 福田昌史 (2) 博士(理学) (3) 中央大学 (4) On the model construction for estimating response propensity score for survey data

adjustment (5) 杉山高一

- (1) 櫻井哲郎 (2) 博士(理学) (3) 中央大学 (4) High-dimensional approximations of some statistics in canonical correlations analysis (5) 杉山高一, 藤越康祝
- (1) 前田康智 (2) 博士(理学) (3) 中央大学 (4) Statistical inference for functional relationship among several multivariate populations (5) 杉山高一, 藤越康祝
- (1) 渡邊大丞 (2) 博士(理学) (3) 中央大学 (4) Distributions for tests of the smallest eigenvalues and some redundancy in multivariate growth curve model (5) 杉山高一, 藤越康祝
- (1) 矢田和善 (2) 博士(理学) (3) 筑波大学 (4) Effective Methodologies in Statistical Inference with Low Sample Size Data (5) 青嶋 誠
- (1) Sarpono (2) 博士(理学) (3) 鹿児島大学 (4) Local Spatial Regression Model for Small

Area Estimation: A Case Study of Disadvantage Villages in Jawa Tengah Province, Indonesia (5) 青木 敏

- (1) 米谷 悠 (2) 博士 (社会工学) (3) 筑波大学 (4) Three Essays on Management Science (5) 金澤雄一郎
- (1) 片山琴絵 (2) 博士 (情報科学) (3) 北海道大学 (4) 分布値に対するシンボリックデータ解析法に関する研究 (5) 水田正弘, 南 弘 征
- (1) 伊藤有希 (2) 博士 (経済学) (3) 一橋大学 (4) On the Recovery Process Models (5) 高橋 一 (平成21年11月)
- (1) 阿部俊弘 (2) 博士 (理学) (3) 慶應義塾大学 (4) A Study of Families of Circular Distributions (5) 清水邦夫
- (1) 趙 雪艶 (2) 博士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 数量化II類によるカテゴリカルデータの判別と要因分析: 馬蹄効果の検討を中心として (5) 田中 豊
- (1) 川野秀一 (2) 博士 (機能数学) (3) 九州大学 (4) Nonlinear Statistical Modeling via Gaussian Basis Expansions and Its Applications (5) 小西貞則
- (1) 深澤正彰 (2) 博士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) Asymptotic Analysis for Stochastic Volatility (5) 吉田朋広 (平成21年12月)
- (1) 小森 理 (2) 博士 (統計科学) (3) 総合研究大学院大学 (4) Boosting methods for maximization of the area under the ROC Curve and their applications to clinical data (5) 江口真透
- (1) 奥村英則 (2) 博士 (理学) (3) 島根大学 (4) Kernel regression for binary response data (5) 内藤貫太

修士論文

- (1) 小藪大介 (2) 修士 (数学) (3) 筑波大学 (4) β -ダイバージェンス最小化によるロバスト推定 (5) 青嶋 誠
- (1) 達川真史 (2) 修士 (工学) (3) 大阪府立

大学 (4) On the admissibility of linear estimators in a multivariate normal distribution under the LINEX loss function (5) 田中秀和

- (1) 市村尚代 (2) 修士 (工学) (3) 大阪府立大学 (4) 非小細胞肺ガン患者における生存時間解析 (5) 栗木進二
- (1) 生亀清貴 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Ridity Score Type Quasi-Symmetry and Decomposition of Symmetry for Square Contingency Tables with Ordered Categories (5) 富澤貞男
- (1) 加藤貴史 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A measure of departure from diagonals-parameter symmetry and its application for square contingency tables (5) 富澤貞男
- (1) 川崎洋祐 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Improved Measure of Departure from Point-Symmetry for Two-Way Contingency Table (5) 富澤貞男
- (1) 鈴木元子 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Measure of Departure from Marginal Point-Symmetry for Two-Way Contingency Tables (5) 富澤貞男
- (1) 高橋文博 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Double Symmetry Model and Its Orthogonal Decomposition for Multi-Way Tables (5) 富澤貞男
- (1) 徳野博貴 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Wald Test Statistic for Marginal Point-Symmetry Model for Multi-way Contingency Tables (5) 富澤貞男
- (1) 富田聡人 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Distance Measure of Departure from Quasi-Symmetry and Bradley-Terry Model for Square Contingency Tables with Nominal Categories (5) 富澤貞男
- (1) 福田真人 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Distance Measure of Departure from Symmetry for Square Contingency Tables with Ordered Categories (5) 富澤貞男

- (1) 堀 亨次 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Extension of Measure for No Three-Factor Interaction Model in Three-Way Contingency Tables (5) 富澤貞男
- (1) 湯浅俊章 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Modified Point Symmetry Model for Square Contingency Tables (5) 富澤貞男
- (1) 谷川原祐一 (2) 修士 (理学) (3) 東京工業大学 (4) MCMC法を用いたスケールフリーネットワークのモデル推定 (5) 下平英寿
- (1) 青井 遥 (2) 修士 (理学) (3) 東京工業大学 (4) 不完全データにおける情報量規準の状態空間モデルへの応用 (5) 下平英寿
- (1) 芳賀浩太 (2) 修士 (理学) (3) 東京工業大学 (4) LiNGAMによる潜在構造探索の信頼性評価 (5) 下平英寿
- (1) 吉森雅代 (2) 修士 (工学) (3) 大阪大学 (4) 線形混合モデルにおけるMSE推定量の数値実験による比較研究 (5) 狩野 裕
- (1) 井上高継 (2) 修士 (工学) (3) 大阪大学 (4) 無視不可能な欠測におけるMLEのバイアス (5) 狩野 裕
- (1) 田中大介 (2) 修士 (社会工学) (3) 筑波大学 (4) Bayesian Analysis of the Latent Growth Model with Dropout (5) 金澤雄一郎
- (1) 江藤大豪 (2) 修士 (工学) (3) 大分大学 (4) イベントデータにおけるクラスター検出法に関する研究 - ULS Scan法の改良 - (5) 和泉志津恵
- (1) 池田智康 (2) 修士 (情報科学) (3) 北海道大学 (4) 区間値関数データに対する解析手法の研究 (5) 水田正弘, 南 弘征
- (1) 高橋一磨 (2) 修士 (情報科学) (3) 北海道大学 (4) 分布値データに対する判別分析に関する研究 (5) 水田正弘, 南 弘征
- (1) 西堀一幹 (2) 修士 (情報科学) (3) 北海道大学 (4) シンボリック多次元尺度構成法を用いたICMPデータの解析に関する研究 (5) 水田正弘, 南 弘征
- (1) 浜田 惇 (2) 修士 (情報科学) (3) 北海道大学 (4) ヒストグラムデータに対するシンボリック主成分分析法とその応用に関する研究 (5) 水田正弘, 南 弘征
- (1) 堀部 舜 (2) 農学修士 (3) 東京大学 (4) マラリア原虫 (*Plasmodium falciparum*) の集団生物地理: 組み換えを許した集団 履歴推定法の開発 (5) 岸野洋久
- (1) 濱田亜矢子 (2) 農学修士 (3) 東京大学 (4) 老化におけるミトコンドリアの機能不全に関する数理モデルの開発 (5) 岸野洋久
- (1) 周怡 (2) 修士 (経済学) (3) 一橋大学 (4) 不完全情報と信用リスク ハイブリッドモデルによる倒産確率の分析 (5) 高橋 一
- (1) 廣田和寿 (2) 修士 (経済学) (3) 一橋大学 (4) Pricing and Hedging of Multi-name Credit Derivatives by Top-Down Approach (5) 高橋 一
- (1) 竹下祐文 (2) 修士 (経済学) (3) 一橋大学 (4) 日本国債の金利期間構造の分析 (5) 高橋 一
- (1) 大川直記 (2) 修士 (理学) (3) 慶應義塾大学 (4) Pipesによる車の追従モデルにもとづく渋滞現象の解明 (5) 柴田里程
- (1) 木戸啓太 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) トランシェ構造を持つモーゲージ債券のモデル化とデフォルト時間の解析 (5) 柴田里程
- (1) 周エイキ (2) 修士 (理学) (3) 慶應義塾大学 (4) コンビニにおけるビール購買意欲の統計解析 (5) 柴田里程
- (1) 仙洞田覚 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 株式投資収益率と企業利益率の分布とその比較 (5) 柴田里程
- (1) 森 圭祐 (2) 修士 (理学) (3) 慶應義塾大学 (4) スキャン統計量の検出力の評価 (5) 柴田里程
- (1) 松下剛士 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 主成分分析における固有値・固有ベクトルの信頼区間 - 漸近理論およびリサンプリング法に基づく信頼区間の性能評価 - (5)

- 田中 豊
- (1) 橋本淳樹 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) Partial Least Squares について～ Biased Regression としての統計的性質～ (5) 田中 豊
 - (1) 堀井里佳子 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) タグチメソッドにおけるSN比の統計的分布について (5) 松田眞一
 - (1) 金森弘晃 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 周期性のあるデータにおける独立成分分析の研究 (5) 松田眞一
 - (1) 金大柱 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 予測情報量規準に基づく非線形回帰モデリング (5) 小西貞則
 - (1) 尾崎智彦 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 状態空間モデルにおける時変パラメータの推定 (5) 西井龍映
 - (1) 篠崎裕昭 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 条件付確率場に基づく空間データのカテゴリ比率の推定 (5) 西井龍映
 - (1) 田中翔太郎 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) モデル選択におけるBagging型leave-k-out Cross Validation (5) 西井龍映
 - (1) 大嶋小次郎 (2) 修士 (情報理工学) (3) 東京大学 (4) Higher Order Approximation of Expectation for Diffusion Processes (5) 竹村彰通
 - (1) 柴田大樹 (2) 修士 (情報理工学) (3) 東京大学 (4) 直交群及び特殊直交群上の統計モデルに関する研究 (5) 竹村彰通
 - (1) 本多淳也 (2) 修士 (情報理工学) (3) 東京大学 (4) An Asymptotically Optimal Policy for Bounded Support Models in the Multiarmed Bandit Problem (5) 竹村彰通
 - (1) 上村俊仁 (2) 学術修士 (3) 神戸大学 (4) MTシステムの概要と利用上の注意点 (5) 稲葉太一
 - (1) 松山祐己 (2) 修士 (工学) (3) 大阪大学 (4) 離散観測に基づく多次元拡散過程の最小コントラスト推定量 (5) 内田雅之
 - (1) 橋本翔 (2) 修士 (人間科学) (3) 大阪大学 (4) 負荷行列の単純構造化をめざしたベイズ因子分析法の研究開発 (5) 足立浩平
 - (1) 稲次春彦 (2) 修士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) Weighted Variation and Its Application to Volatility Estimation (5) 吉田朋広
 - (1) 藤田直樹 (2) 修士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) 死亡率のモデル構築 (5) 吉田朋広
 - (1) 榎本理恵 (2) 理学 (修士) (3) 東京理科大学 (4) On the Distribution of Improved Multivariate Jarque-Bera Test Statistics (5) 瀬尾 隆
 - (1) 高橋翔 (2) 理学 (修士) (3) 東京理科大学 (4) A New Test Statistic for Equality of Two Mean Vectors with Monotone Missing Data (5) 瀬尾 隆
 - (1) 櫻井智子 (2) 理学 (修士) (3) 東京理科大学 (4) Tests for Profile Analysis in Growth Curve Model (5) 瀬尾 隆
 - (1) 山崎彰子 (2) 理学 (修士) (3) 東京理科大学 (4) Tests for Mean Vector with Two-step Monotone Missing Data (5) 瀬尾 隆
 - (1) 保科架風 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) データ行列の類似度に基づく主成分数の選択 (5) 酒折文武
 - (1) 松岡修平 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) 区間データに対するK-PCA (5) 酒折文武
 - (1) 下村 亮 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) 混合正規分布モデルによる分類法の評価 (5) 酒折文武
 - (1) 佐伯和孝 (2) 修士 (経済学) (3) 名古屋市立大学 (4) 確率過程を用いた保険理論 (5) 宮原孝夫 (平成21年3月)
 - (1) 北森高広 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 繰り返し測定値に対する非線形モデルにおけるロバスト推定 (5) 百武弘登
 - (1) 永田拓摩 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 平行プロフィールモデルにおける対比較 (5) 百武弘登
 - (1) 古勝大智 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) コントロール群と相関のある処置群と

の比較に対する尤度比検定 (5) 百武弘登

- (1) 蘇冬青 (2) 修士 (綜合理工) (3) 島根大学 (4) Inference for Multivariate Spline Mixed Model (5) 内藤貫太 (平成21年9月)
- (1) 勸場大 (2) 修士 (理学) (3) 島根大学 (4)

Lq 罰則による one-step 推定量の平滑化パラメータ選択 (5) 内藤貫太

- (1) 吉田拓真 (2) 修士 (理学) (3) 島根大学 (4) B-スプライン平滑化の漸近理論 (5) 内藤貫太

8. 理事会議事録

2008・2009年度 第6回理事会議事録

日 時：2月6日 (土) 12:00～14:00

場 所：統計数理研究所 八重洲サテライトオフィス会議室

出席者：美添泰人会長, 岩崎学理事長, 渡部敏明 (会誌編集・和文), 内田雅之 (広報・会報), 根本二郎 (広報・HP), 田村義保 (渉外・プロジェクト研究), 稲葉由之 (大会・プログラム), 星野伸明 (大会・プログラム), 古澄英男 (大会・運営), 山下智志 (庶務会計), 中西寛子 (庶務会計), 各務和彦 (庶務会計), 吉田清隆 (ML管理) (以上13名, カッコ内は役割分担)

報告事項：

冒頭, 吉田幹事より幹事就任の挨拶があった。

<議題1>会長からの報告

美添会長より, 2011年度の統計関連学会連合大会の会場の検討が続いていることが報告された。

<議題2>理事長からの報告

岩崎理事長より, 日本統計学会から日本学術振興会賞の候補者を推薦したが, 受賞できなかったことが報告された。

<議題3>各理事からの報告

[欧文誌]

谷口担当理事に代わり山下理事より, 日本学術振興会に科研費の年を超えた使用許可の書類を提出したことが報告された。

[和文誌]

渡部担当理事より, 第1号が出版されたこと, および第2号の進捗状況が報告された。

[渉外]

前園担当理事に代わり山下理事より, 今年, 日本・韓国・台湾の合同セッションが韓国で開催されることが報告された。

田村担当理事より, 横幹連の代議員が田村氏から鎌倉氏に交代されたことが報告された。また, 科研費の統計科学への応募の促進を促すようにとの提案があった。

[広報]

内田担当理事より, 会報142号が発行されたことが報告された。また, 資料に基づいて会報143号の進捗状況が報告され, 原稿の担当者が確認された。

[大会プログラム]

稲葉担当理事より, 資料に基づいて, 9月5日から8日まで統計関連学会連合大会が開催されること, および, その進捗状況が報告された。

[大会運営]

古澄担当理事より, 連合大会運営に関する進捗状況が報告された。

[庶務会計]

山下担当理事より, 名簿が2009年12月月中旬に各会員宛に配布されたことが報告された。

<議題4>横幹連合のシンポジウムの準備状況

田村担当理事より, 資料に基づいて, 横幹連合のシンポジウムが9月5・6日に早稲田大学で連合大会と平行して開催されることが報告された。

<議題5>2009年度春期集会に関する報告

稲葉担当理事より, 資料に基づいて, 春期集会のプログラムなどが報告された。

審議事項：

<議題1> 幹事任命の手続きについて

岩崎理事長より、資料に基づいて、幹事の任命手続きにおいて、評議員会の議決が必要であることが確認された。また、理事の任命手続きにおいても、評議員会の議決が必要であることが確認された。

<議題2> 60周年記念事業委員会からの提案について

美添会長より、資料に基づいて、60周年記念事業委員会からの基金移管に関する提案が紹介され、

今年度中に基金の管理主体を60周年記念事業委員会から日本統計学会に移管するためには、新たに基金の運営規定を作成する必要があることが説明された。規定の作成は理事長に一任することとして、提案が了承された。

<議題3> 入退会者承認

山下担当理事より、回収資料に基づいて、入退会者の紹介が行われ、入退会が承認された。

<議題4> 今後の会務日程

岩崎理事長より、次回理事会を5月29日12:00～開催することが提案され、承認された。

9. 新刊紹介

本会会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を、原稿の到着順に掲載します。

●安道知寛 著『ベイズ統計モデリング』朝倉書店、3,465円(税込)、2010年2月

ベイズ統計モデルの推定、及びその評価法に関連する手法を解説している。概念理解を深めるため、書籍内の数値結果に関連するRプログラムも公開されている。

●D. ショーカー 著、石田基広／石田和枝 訳『Rでグラフィックス自由自在』シュプリンガー・ジ

ャパン社、4,700円、2009年12月

●小西貞則 著『多変量解析入門－線形から非線形へ』岩波書店、3,675円、2010年1月

回帰モデルやベイズ判別、線形・非線形主成分分析、サポートベクターマシーン、クラスタリングなどの多変量データ解析手法について、線形から非線形への展開を、実例とともに紹介する。

●R.M. ハイバーガー／E. ノイヴィルト 著 石田基広／石田和枝 訳『ExcelでR自由自在』シュプリンガー・ジャパン社、4,500円、2010年3月

10. 学会事務局から

会費の減免に関するご連絡

本学会の細則には「通算して会員歴35年以上の条件を満たし、かつ常勤職に就いていない者には、申告により会費の減免を認めることとする。(中略)減免された会費は5000円とする」という規程があります。本規程をご存じでない等の理由で、減免の対象者であるにもかかわらず、申請をしていない方もいらっしゃると思います。改めて申請をご検討していただくよう、お願い申し上げます。

申請方法は学会庶務会計担当理事 (shom@jss.gr.jp) あてに、会費減免に該当する旨、氏名を明記しご連絡いただければ結構です。

学会費払込のお願い

2010年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自

動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F

財団法人 統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

西 次男 会員

入会承認

青木隆明, 砂本直樹, 津久井満, 友定充洋, 長倉大輔, 盛浩之 (敬称略)

退会承認

岩本悌治, 大塚渉, 佐久間敏治, 藤田峯三, 平安名常儀, 前原潤 (敬称略)

現在の会員数 (2010年2月8日)

名誉会員	20名
正会員	1,363名
学生会員	49名
計	1,432名
賛助会員	16法人
団体会員	5団体

11. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

• 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

• 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。

• 求人案内 (教員公募など)

• 研究集会案内

• 新刊紹介

著者名、書名、出版社、税込価格、出版年月を

お知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

できるだけe-mailによる投稿、もしくは、文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先 :

〒560-8531 大阪府豊中市待兼山町1-3

大阪大学大学院基礎工学研究科

社会システム数理領域

内田 雅之 宛

Tel & Fax : 06-6850-6465

E-mail : koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- ・統計学会ホームページURL：
<http://www.jss.gr.jp/>
- ・統計関連学会ホームページURL：
<http://www.jfssa.jp/>
- ・住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- ・広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- ・その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp